

# 読書のまち・かわさき通信NO.62



読書のまちかわさき

読書のまち・かわさき事業推進委員会 会長  
川崎市教育委員会 学校教育部 指導課長

2013. 12. 3発行

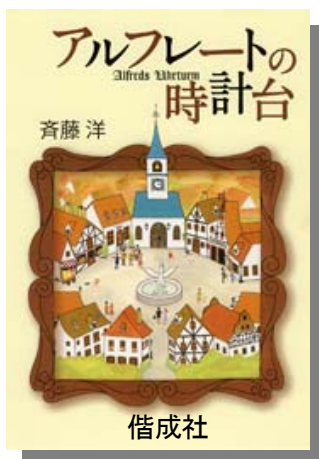
かわさき読書週間

10月27日～11月9日

## 第11回 かわさき読書の日のつどい

## が行われました

毎年、10月末から11月はじめの2週間を「かわさき読書週間」と位置づけています。期間中の11月の第1日曜日には、「かわさき読書の日のつどい」が開催されています。今年も11月3日（日）に中原市民館で行われました。



会場では、市内の児童生徒から寄せられた読書活動に関する「標語」「ポスター」「おススメの本の紹介文」などの展示と優秀作品の表彰が行われました。また、長年にわたり図書館・学校・地域で子どもの読書を推進する活動に取り組んできた2つの優秀団体が表彰されました。

講演会では「ルドルフシリーズ」でおなじみの児童文学作家の齊藤洋氏をお迎えして、『物語のたて糸よこ糸』というテーマでお話していただきました。

齊藤先生の作品『アルフレートの時計台』について小・中学生と意見交流する場面では、子どもたち



ちから、「一番印象に残っているのは最後の手紙のシーン」という感想や「なぜ外国の街が舞台なのですか？」「私は未来と過去を行き来できるタイムマシンのような時計台が欲しいのですが、先生は？」などの質問が飛び出すと、先生は「自分の小さいころの自分に会いたい」と返答されるなど、終始和やかな雰囲気の中、齊藤先生と子どもたちとのあいだで、作者と読者のこころの交流が行われました。

講演会では「ルドルフシリーズ」でおなじみの児童文学作家の齊藤洋氏をお迎えして、『物語のたて糸よこ糸』というテーマでお話していただきました。齊藤先生の作品『アルフレートの時計台』について小・中学生と意見交流する場面では、子どもたちから、「一番印象に残っているのは最後の手紙のシーン」という感想や「なぜ外国の街が舞台なのですか？」「私は未来と過去を行き来できるタイムマシンのような時計台が欲しいのですが、先生は？」などの質問が飛び出すと、先生は「自分の小さいころの自分に会いたい」と返答されるなど、終始和やかな雰囲気の中、齊藤先生と子どもたちとのあいだで、作者と読者のこころの交流が行われました。

### ★ “来場者の感想より” ★

- ・齊藤洋先生の児童文学作家になるまでの、ご苦労などをユーモアを交えてお話をしてくださり、会場も一気に和み、先生の日ごろの考えや話づくりへの取り組みなども紹介され、得した気分になりました。
- ・齊藤先生のお話の中で「児童文学の未来が暗い」と聞き、ドキッとしました。読書離れがますます多くならないように、本に親しむ機会を多くもたせたいと思いました。
- ・ポスターやキャッチフレーズなど、どれも素敵な感性にあらわれる作品でした。本の紹介文は、読むことを他の人に奨める気持ちを上手にあらわされていて良かったです。

# 川崎フロンターレと本を読もう！ キックオフ！ “読書のまち かわさき”



「読書のまち・かわさき」事業の一つとして、今年度も川崎フロンターレと協働し、読書推奨キャンペーン事業「川崎フロンターレと本を読もう！」を実施しています。今年には新たな取り組みとして、「帯コメント大賞」を実施しました。選手により10名が大賞に選ばれ、11月10日の試合前に授賞式を行いました。現在、住吉書房のご協力を得て受賞作品を実際の帯として市内6店舗で12月31日までコーナー展示しています。



さらに、小さいお子様から本を好きになってもらえたらと、絵本『どくしよすき？』を製作し、市立図書館全館での貸し出しを開始しています。また、



例年行われている「人形劇団ひとみ座&川崎フロンターレ人形劇とサッカー選手等による読み聞かせ」などのコラボレーションを市立図書館と小学校で行っています。

## 第2回 全市図書ボランティア研修会

ご来場  
ください

この研修会は、学校図書ボランティアの方が対象ですが、読書に興味・関心のある市民の方々の参加、学校図書ボランティアに関心のある方も大歓迎です。

今回は、赤木かん子先生をお迎えして、「子どもの本の現在」や「読み聞かせ」等についてお話をいただきます。皆様お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

### ★赤木 かん子講演会 「子どもの本の現在」

日時：2014年1月21日（火）

〔受付開始9：30〕9：50～11：20

会場：中原市民館 多目的ホール

（JR線、東急線：武蔵小杉駅より徒歩5分）（パークシティ武蔵小杉ミッドスカイトワー2F）



講師：赤木 かん子

〈プロフィール〉 児童文学評論家。長野県松本市生まれ、千葉育ち。法政大学英文学科卒業。1984年に、子どもの頃に読んでタイトルや作者名を忘れてしまった本を探し出す「本の探偵」として本の世界にデビューされました。以来、子どもの本や文化の紹介、ミステリーの紹介・書評などで活躍していらっしやいます。著書に、「こちら本の探偵です」筑摩書房（文庫版）「この本読んだ おぼえてる？」フェリシモ出版等があります。